

平成25年度

自己評価報告書
学校関係者評価報告書

学校法人電波学園
ぎふ国際高等学校

平成25年度 ぎふ国際高等学校の学校教育目標

1. 学校教育の目標

- (1) 「自律・進取・創造」の校訓のもと、豊かな社会性を身に付け、地域社会人として信頼される確かな基本的生活習慣・規範意識や考え方・生き方を育成する。
- (2) 夢や目標をもち、社会に貢献できる自己の実現に向け、基礎的・基本的な学力の定着を図りつつ、主体的・継続的に学び続ける意欲や態度を育成する。
- (3) 他人の立場や思いを理解し、互いの人格を尊重し、思いやりのある言動をとることができる豊かな人間性を育成する。

2. 学校教育の方針

- (1) 岐阜県・岐阜市に根をおろし、中学校や高等学校と日常的な連携を深め、地域社会からも信頼される学校づくりを目指す。
- (2) 誠実でありながら苦戦している生徒（保護者）たちにとって、必要不可欠な存在となるべく、教育の質的向上と情報発信に努める。
- (3) 受容・理解・支援のカウンセリングマインドを基盤に、個に応じた「面倒見の良い」きめ細かな指導を、全職員の共通理解・共通指導のもと実践し、個々の生徒の自己実現を図る。
- (4) 保護者や地域社会との相互理解・信頼・連携・協力を深め、豊かで確固たる学校文化を創造する。

3. 学校教育の重点

- (1) 学校経営の重点・・・すべての生徒が安心して楽しく学び、確かな学力を身につけ、自己実現していけるための教育環境・教育課程・教育相談等の充実を図る。
- (2) 家庭との連携・・・出席状況や報告課題の提出状況また生活全般に関わる問題の解決に向けて、保護者との連携を密に図り、有意義な学校生活を送れるようにする。
- (3) 教科指導の重点・・・基礎学力の定着を基盤に、個に応じたきめ細かな学習支援を行い、思考力・判断力・表現力の育成を意図し、学ぶ喜びを感じさせながら自ら主体的に学ぶ姿勢を身につけさせる。
- (4) 特活指導の重点・・・集団や社会の一員として必要な礼儀・社会常識・言葉遣い・協調性・社会貢献への主体的参加姿勢等を身につけさせ、豊かな生活や人間関係を築こうとする実践的態度を育成する。
- (5) 人権教育の重点・・・自他の人権を尊重し、誰もが安心して楽しく生活できる集団環境の醸成に努める。
- (6) 生徒指導の重点・・・守るべき規律・規範を明確にし、生徒が主体的に遵守していけるよう、職員の共通指導を徹底させる。
- (7) 教育相談の重点・・・多くの生徒が精神的・身体的な課題を抱え、これまでの成育歴の中で心の傷を負ってきたことを踏まえ、全職員がカウンセリングマインドをもって受容・理解・支援の指導に徹する。
- (8) 進路指導の重点・・・社会性やコミュニケーション能力の向上を図り、適性や長所等の自己理解を深めさせ、具体的な進路目標を早期にもって主体的に自己実現していけるよう、指導の充実を図る。
- (9) 健康安全指導の重点・・・自己の生活・健康・安全・環境についての意識を高め、自己管理能力の育成を図る。
- (10) 対外活動の重点・・・本校の存在意義やよさを、保護者・地域・中学校・高等学校・特支学校関係機関等より多くの人々に理解される為の啓発活動を充実させる。

生徒アンケート集計結果

評価欄 A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない E:わからない

数値は割合(%)を示します

		A	B	C	D	E	
教育方針 学校経営	1	学校の教育方針や指導目標について分かりやすく説明を受けている。	21	45	21	4	9
	2	個性によるクラス分けや登校時間帯分けが行われていることで、自分の居場所を得ることができた。	42	34	16	3	5
	3	学校は一人一人の良さや可能性を伸ばすことに努めている。	21	38	22	7	12
	4	学校の施設・設備は、学習環境の面でほぼ満足できる。	37	43	14	2	4
家庭との連携	5	学校からの連絡文書等は、保護者に確実に届けている。	47	27	15	7	4
	6	家庭で学校に関する話をしている。	32	32	20	12	4
教職員	7	先生に親しみやすさを感じている。	29	34	25	4	8
	8	先生は悩みや相談事に親切・丁寧に対応してくれる。	27	36	18	5	14
	9	事務職員の対応は親切・丁寧である。	34	37	14	4	11
学習指導	10	理解しやすい授業が行われている。	26	44	19	7	4
	11	先生は熱心に授業を行っている。	34	41	18	3	4
	12	落ち着いた雰囲気や授業を受けることができている。	48	29	16	3	4
	13	基礎学力が身に付いてきたと感じている。	17	34	31	10	8
	14	総合的な学習の時間の内容は有意義である。	21	44	22	4	9
	15	レポート作成などを含め、継続的な家庭学習を行っている。	23	37	27	10	3
生徒指導	16	マナーを身に付けることや、社会のルールを守るようにとの指導が適切に行われている。	29	37	21	5	9
	17	個性に応じた服装、頭髪等の指導が適切に行われている。	37	35	15	5	8
	18	いじめや対人トラブルが発生しないための指導がされており、もし発生した場合は速やかに対応してもらえる。	25	29	14	5	27
進路指導	19	有意義な進路説明会が行われている。	20	40	17	5	18
	20	個別の進路相談に熱心に対応してもらえる。	23	33	19	3	22
健康管理 安全指導	21	生徒の衛生面に配慮し、身体の健康維持に対する指導を適切に行っている。	20	42	19	5	14
	22	臨床心理士や養護教諭がいるので学校に安心感が持てる。	33	33	18	4	12
	23	学校は交通事故の防止活動、避難訓練などを通して安全確保に努めている。	30	43	17	3	7
	24	地震や台風などの際の対応についての指導をしっかりと受けている。	22	42	21	6	9
学校行事等	25	特別活動は充実している。	36	37	16	6	5
	26	部活動が活発に行われている。	18	21	24	12	25
	27	生徒会活動は活発である。	22	26	21	9	22
	28	学校はボランティア活動の大切さを教えると同時に、その機会を提供している。	22	35	18	5	20

保護者アンケート集計結果

評価欄 A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない E:わからない

数値は割合(%)を示します

		A	B	C	D	E	
教育方針 学校経営	1	学校の教育方針(個性によるクラス分け等)や指導の内容に共感できる。	42	44	8	4	2
	2	明るく楽しそうに学校生活を送っている	31	46	16	4	3
	3	学校は一人一人の良さや可能性を伸ばすことに努めている。	18	38	24	4	16
	4	学校の施設・設備は、学習環境の面でほぼ満足できる。	37	46	11	0	6
家庭との連携	5	学校からの連絡文書等は、保護者に確実に届けられている。	62	25	9	2	2
	6	学校と保護者との連携はしっかりとれている。	27	41	22	5	5
	7	子どもは家庭で学校でのことをよく話す。	29	36	29	4	2
教職員	8	保護者が学校を訪問したり、電話した時の教員の対応は適切である。	42	42	9	3	4
	9	教員の子どもに接する時の態度は適切である。	26	44	14	4	12
	10	教員の子どもに対する指導(学習・生活・進路)に熱心さを感じる。	18	39	19	8	16
事務職員	11	保護者が学校を訪問したり、電話した時の事務職員の対応は適切である。	43	38	11	2	6
	12	事務職員の子供に接する時の態度は適切である	27	39	9	2	23
	13	事務職員による学納金等の事務説明が明確である。	37	44	12	0	7
学習指導	14	学校は基礎学力の定着・向上に努めている。	20	42	22	2	14
	15	教員は熱心に学習指導を行っている。	18	41	16	5	20
	16	レポート作成など家庭学習が定着してきた。	23	46	20	3	8
生徒指導	17	マナーを身に付けることや、社会のルールを守るようにとの指導が適切に行われている。	22	47	12	2	17
	18	個性に応じた服装、頭髪等の指導が適切に行われている。	31	40	13	2	14
	19	いじめや対人トラブルが発生しないための指導がされており、発生した場合は速やかな対応がなされている。	23	30	11	4	32
進路指導	20	進路説明会などが適切に行われている。	23	44	12	2	19
	21	生徒の将来の希望や適性に沿った具体的な進路指導が行われている。	14	39	18	5	24
健康管理 安全指導	22	学校は生徒の衛生面に配慮し、身体の健康維持に対する指導を適切に行っている。	21	45	11	3	20
	23	学校は臨床心理士を配置するなど教育相談活動の充実を図り、心のケアに努めている。	35	44	10	2	9
	24	学校は交通事故の防止活動、避難訓練などを通して子どもの安全確保に努めている。	31	46	12	1	10
	25	学校から地震や台風などの際の対応について、生徒や保護者に対応マニュアルが知らされている。	28	39	17	3	13
学校行事等	26	学校は子どもの成長の糧となるような学校行事を行っている。	21	49	18	3	9
	27	本校の生徒会活動は活発である。	10	37	19	5	29
	28	学校はボランティア活動の大切さを教えると同時に、その機会を提供している。	12	36	21	3	28
	29	本校の保護者会活動は活発である。	10	36	23	3	28

平成25年度 自己評価 報告書

ぎふ国際高等学校

学校番号 102

I 自己評価

1	学校教育目標	別紙参照	
2	評価する領域・分野	◇教務（学校経営・教育課程・学習指導）	
3	現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>単位未修得に対する指導を行い、3年間で卒業できるように指導。 各学習センターの運営と生徒指導のための情報共有。 生徒増に対応するため、講師の先生へも本校の教育システムを理解していただくことが必要。 3校舎体制を続けることの是非を考える。（教員の配置、指導面）</p>	
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>単位取得率を上げるため、安易な欠席をなくす。 生徒への共通理解を図り、3校舎の生徒を卒業、進路決定へ導く。 講師会の実施。</p>	
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	<p>教務の連絡を密にし、転編入生徒のカリキュラム作成を確実に行う。連絡会議において心理士も含め、生徒の状態の共通理解を図る。</p>	
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<p>安易な欠席を減らすため、授業内容および補充授業の見直し。 生徒・保護者への学校評価アンケートの実施。 新カリキュラムの実施と状況の確認。</p>		<p>単位取得率が向上したか（総取得単位数／在籍数） アンケートの集計・結果の検討 3校舎の運営状況</p>	
8	取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<p>補充授業を特別な理由がない場合には実施しないことを生徒に宣言し実行。（補充授業実施者には特別補講願を提出させる）</p>		<p>単位修得率 アンケート実施 運営状況</p>	<p>A (B) C D A (B) C D A B (C) D</p>
11	成果・課題	総合評価	
<p>安易な欠席に対する補講をしないことで欠席が減り、単位の取得率が向上した。また、教員の時間も余裕ができ、レポート指導に充てることができた。 3校舎の運営はできているものの、教員の移動や年次担当がない時の生徒指導の面で問題が残る。</p>		<p>A (B) C D</p>	
12	来年度に向けての改善方策案		
<p>アンケートの結果、クラス分けなど本校の方針については概ね理解され、評価を得ている。しかし、家庭連絡や基礎学力の定着の面では評価が低い。普通科の高等学校として、進学に向けた基礎学力の向上を目指すため学校全体としての取り組みが必要である。</p>			

A…十分達成した B…おおむね達成した C…やや不十分 D…不十分

平成25年度 自己評価 報告書

ぎふ国際高等学校

学校番号 102

I 自己評価

1	学校教育目標	別紙参照	
2	評価する領域・分野	◇生徒指導・教育相談	
3	現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめのない、安心して登校できる学校づくり ・登校して、楽しい学校づくり ・生徒が落ち着いて学べる環境づくり 	
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・安心して登校できる学校 ・校則の遵守 	
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導担当、年次担当の連携 	
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> ・個別面談、朝の玄関指導 ・MSリーダーズ活動、街頭啓発活動の参加 ・地域市民活動への参加、清掃活動 ・エコキャップ運動、募金活動、マナー啓発活動 		<ul style="list-style-type: none"> ・クリスタルコースが落ち着いた状態になっているかどうか。 ・レインボーコースが規則遵守の雰囲気になっているかどうか。 	
8	取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・まゆざり・頭髪の色・服装・履物・ピアス等をチェックし、指導を実施 		<ul style="list-style-type: none"> ・校内の雰囲気(落ち着き度) 	A (B) C D
11	成果・課題	総合評価	
<ul style="list-style-type: none"> ・いじめや学校の様子に対する不安については、若干、特定の生徒が不安を感じるような事案があったが早急に対応し、大事には至らなかった。 ・懲戒規定に触れる行為が13件発生。それ以外に注意指導を必要とする行為が時折見られた。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ A (B) C D ・ A B (C) D 	
12	来年度に向けての改善方策案		
<ul style="list-style-type: none"> ・クリスタルコースについては、楽しく、安心して登校できる学校づくり。 ・レインボーコースについては、規則遵守、基本的生活習慣の確立の継続指導を行い、単位修得率の向上につなげる。 			

A…十分達成した B…おおむね達成した C…やや不十分 D…不十分

平成25年度 自己評価 報告書
ぎふ国際高等学校

学校番号 102

I 自己評価

1	学校教育目標	別紙参照	
2	評価する領域・分野	◇進路指導	
3	現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	進路説明会に関して保護者は67.3%、生徒は60.3%が適切に行われていると評価。個別の生徒指導に関しては保護者が53.4%、生徒は55.5%が適切に行われていると評価。個別の指導を丁寧を実施し、時間をこれまで以上にかかる必要性がある。	
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	個別指導の時間の不足は、根本的には通信制の制度による部分が大きいが、担任による指導の工夫は必要ではある。また、個別指導の不足分を全体的な指導を充実させることで補うことを目指す。	
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	第一に3年次担任の間の生徒に関する情報共有。進路スケジュールの共有。これら2点の徹底により3年次担任誰でも個別指導ができる環境づくりを目指す。その後順次2年1年次へ拡大を目指す。	
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
大学、専門学校の教員、入試広報担当者を招いて進路説明会を年2回実施し、会終了後の個別相談の充実を図る。また、事後の担任による個別指導の充実。就職希望の生徒に対する情報提供の充実を図るため、ハローワーク主催の企業説明会への参加の推奨。		3年次生対象の進路説明会では保護者の参加率が増え、およそ20%は参加。生徒の参加率はおよそ55%であった。	
8	取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
6.に加えてPTA主催として大学専門学校の見学会を実施。大学短大進学希望者に対して、適切な進学先選択ができるように、従来の外部模試の受験を推奨。結果のフィードバックを通じて適切な進路選択ができるように情報を提供、指導を行う。		進路説明会の参加率、任意ではあるが、就職希望者のハローワーク主催の企業説明会の参加率。大学短大希望者の模試の受験率。就職希望者の就職試験未受験率。各割合を集計、結果と合わせて生徒の進路決定に対する意識を検討。	A (B) C D A (B) C D
11	成果・課題	総合評価	
進路決定率は70.0%を達成。四年制大学・短期大学(22.6%)、専門学校(29.7%)、就職(17.7%)、その他(30.0%)となった。前年度より4%決定率が低下、しかし、過去5年間70%を下回ることにはなかった。就職希望の未受験者と初回受験で不合格となり活動を継続できなくなった生徒への指導。		A (B) C D A B C D	
12	来年度に向けての改善方策案		
外部講師による進路説明会、講話の充実。進学に関しては、大学、専門学校の教員、入試広報担当者を招いて進路説明会を年2回実施。大学短大進学希望者に対して、適切な進学先選択ができるように、従来の外部模試に加えて学内模試を実施。結果のフィードバックを通じて適切な進路選択ができるように情報を提供、指導を行う。就職に関しては、ハローワークの担当者及び福祉協議会の担当者を招いて進路説明会を実施し、就職希望の生徒に対する情報提供の充実を図る。職場体験として専門学校見学を学校行事の一環と位置づける。PTA主催による大学専門学校見学会の実施回数の増加。			

A…十分達成した B…おおむね達成した C…やや不十分 D…不十分

平成25年度 自己評価 報告書

ぎふ国際高等学校

学校番号	102
------	-----

I 自己評価

1 学校教育目標	別紙参照	
2 評価する領域・分野	◇特別活動	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	生徒、保護者に連絡事項の周知徹底を図るとともに卒業要件である時間数の履修が進むよう心がけた。 校外学習については大過なく実施でき、楽しめたという生徒の声が多かった。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	校外活動に関しては前期・後期各1回実施し、普段の授業では得られない学習、級友との会話、自己の向上を目指し参加できることを目標にする。 外国人による講演会の実施。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	年次担当および特別活動担当との間で緊密な事前協議を行い、生徒に対して特別活動の意義等の周知徹底を図る。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
旅行会社との打合せ、年次担当などとの話し合いを通じて有意義な活動になるよう準備する。 生徒に対する事前アンケートの実施。	生徒へのヒアリング及び年次担当の所感を達成度の判断基準とした。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・前後期1回ずつの校外活動と学校祭を実施した。 ・国際理解に向けての外国人による講演会を行った。 ・台湾への異文化体験研修旅行を企画したが、諸般の事情により参加希望生徒不足により実施できなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全面において事故なく実施できたかどうか。 ・生徒にとって意義ある活動となったかどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ A (B) C D ・ A (B) C D
11 成果・課題	総合評価	
<ul style="list-style-type: none"> ・校外活動については、大きな問題もなく実施できた。 ・学校祭については保護者会協力のもと生徒会主体で実施でき、全体的に好評であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ A (B) C D ・ A (B) C D 	
12 来年度に向けての改善方策案		
<ul style="list-style-type: none"> ・異文化体験研修旅行を実施できるようにする。 ・次年度は、初めての試みである修学旅行についても検討していく。 ・校外活動に前期は3年次、後期は2年次に職業教育・キャリア教育を加えていく。 		

A…十分達成した B…おおむね達成した C…やや不十分 D…不十分

平成25年度 自己評価 報告書

ぎふ国際高等学校

学校番号	102
------	-----

I 自己評価

1 学校教育目標	別紙参照	
2 評価する領域・分野	◇保健厚生	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	基本的な生活習慣の確立が難しい状況にある生徒が多い。自身の健康管理に対する意識が低い。心と体のバランスのとれた健康維持が大切になる。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	生活習慣の確立にむけて、自身の健康状態に関心をもつ。また、心と体のバランスがとれるよう心身ともに自己管理できる力を身につける。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	担任、養護教諭、臨床心理士それぞれの特性を生かし、連携をはかる。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> ・健康診断の結果、要精密検査・早期治療等が必要な生徒に対して継続的な医療機関受診を促す。 ・保健室来室者に対して、問診を詳しく行い記録をとる。身体面、メンタル面様々な要因を考え、それにあつた助言を行うなど、効果的な健康相談活動を実践していく。メンタル面においては、臨床心理士と情報を共有するなど、連携をはかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・要精密検査・早期治療等が必要な生徒の医療機関受診状況 ・保健室来室者のなかで、再来室した生徒の状況の内容 	
8 取組状況・実践内容等	評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・要精密検査・早期治療等必要な生徒への治療勧告書配布、継続的な状況確認 ・保健資料配布（保護者・生徒向け） ・保健室来室者に対する健康相談活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・受診者の把握、その後の身体の状態においても把握できているか ・保健資料の配布やほけんだよりの発行を通じて積極的な保健、衛生に関する情報提供をすることができたか ・生徒からの健康相談に対し、継続的に相談活動が行えたか 	<ul style="list-style-type: none"> ・ A (B) C D ・ A B (C) D ・ A (B) C D
11 成果・課題	総合評価	
<p>生徒の様々な疾病状況把握に努めることを意識し、必要があれば保護者に連絡をして確認することや、保健室来室者に対して継続的な健康相談活動を行うことができた。</p> <p>メンタル面において、臨床心理士と情報交換する時間をもう少し作りたい。保健室での様子など、気になる生徒の情報交換は密に行える状態にする。</p>	<p style="text-align: center;">A (B) C D</p>	
12 来年度に向けての改善方策案		
<p>保護者の方と連携をはかり、生活習慣の改善や、健康への意識を高めることを家庭においても意識してもらえよう保護者向けの保健資料を活用したりするなど、働きかけをしていく。</p>		

A…十分達成した B…おおむね達成した C…やや不十分 D…不十分

平成25年度 自己評価 報告書

ぎふ国際高等学校

学校番号	102
------	-----

I 自己評価

1 学校教育目標	別紙参照	
2 評価する領域・分野	◇図書	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	蔵書の充実。図書の購入希望があった。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	蔵書管理と貸し出し業務のIT化。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	ラベル貼り、蔵書冊数調べなど応援体制があった。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
ITによる整理、整頓	蔵書が管理、整理されている。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
新着図書を含めた現在ある図書	・管理、整理されている。	A (B) C D
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・蔵書管理、貸し出し管理のIT化はできたが、完璧ではない。引き続き生徒の図書室利用頻度の向上、読書活動への啓蒙にも力を入れていきたい。 ・図書同好会から図書部になり蔵書の整理等に協力してくれた。 	<p style="text-align: center;">総合評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A B (C) D ・ A (B) C D
12 来年度に向けての改善方策案		
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒からの希望図書を優先として蔵書を購入し、生徒が読書や文学に興味を持てるように図書室の利用方法を検討する。 ・図書貸し出し管理のIT化の完成。 		

A…十分達成した B…おおむね達成した C…やや不十分 D…不十分

平成25年度 自己評価 報告書

ぎふ国際高等学校

学校番号	102
------	-----

I 自己評価

1 学校教育目標	別紙参照	
2 評価する領域・分野	◇ 渉外	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	生徒や保護者によるアンケートの対象外	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	新入学生130名以上の受入れ。転編入学者70名以上の受入れ。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	岐阜県内は教頭が訪問担当者となり、愛知県は地区ごとに担当者を割り振る。合同説明会へは、副校長が中心となり参加。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
中学生募集に関しては、岐阜県内（130校）及び愛知県内の中学校（80校）への情報提供のための訪問を実施。転学生の募集に関しては、転入学実績校（30校）に資料を郵送。通信制高校の合同進学説明会に参加。	学校見学参加者の数。中学校新卒者の受験者数と入学数。転編入学者の数。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
ほぼ計画通りの訪問は実施できた。通信制高校の合同説明会には参加した。また新しい試みとして、岐阜県内の転入学実績校には資料を郵送した。	①効果的な中学校訪問 ②転編入学実績校への資料送付 ③通信制高校の合同説明会への参加（個別ブースへの来場者数）	A <input checked="" type="radio"/> B C D A <input checked="" type="radio"/> B C D A B <input checked="" type="radio"/> C D
11 成果・課題	総合評価	
学校見学参加者の数及び入学者数は前年度とほぼ同数であったが、中学校の指導に従えていない生徒は受け入れることはできない旨を明確にしたため、その分の増加がなかったと考える。しかし、不登校生徒を多く受け入れている状況から考えれば、安全安心な学校環境を提供することにつながったと考える。ただ転編入学者に関しては一部問題行動を起こす生徒を受入れてしまった。	A <input checked="" type="radio"/> B C D	
12 来年度に向けての改善方策案		
①中学生募集に関しては、個性によるクラス分けをより積極的にアピールし、不登校生や適応教室に通う生徒に安心安全な学校であることを訴えかける。それに対して中学校の指導に従えていない生徒の受入れは絶対にできないことを26年度募集以上に周知徹底する。 ②転入学者の募集に関しては、高校訪問を実施する。 ③インターネット上での情報収集が進んでいるため、一括資料請求のバナー広告を1社増やす。		

A…十分達成した B…おおむね達成した C…やや不十分 D…不十分

平成25年度 自己評価 報告書

ぎふ国際高等学校

学校番号	102
------	-----

I 自己評価

1 学校教育目標	別紙参照	
2 評価する領域・分野	◇事務	
3 一定の基準、規制の中で、それらと折り合いをつけながら、学校のおかれた環境と向き合い、自律的な営みを進めていく。	職務遂行能力と迅速な対応・組織の一員として、学校に關与する人たちのニーズに適応させながら、整合性をもたせ円滑に処理する。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	教育に関わる活動と管理的、経営的活動の関連	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	情報の共有化を図り、組織的教育力の向上に努める。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
① 生徒・保護者が何を必要としているかを把握したうえでの、信頼される学校づくり。 ② 教職員と連携・共通理解をし、学校教育目標の達成。	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度と比較し、どうだったか。 ・連携を取り合い、合理的に業務にあたっているか。 	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
① 生徒・保護者への支援業務に携わり、相談窓口等としての機能や学校生活に必要な情報を発信し、支援機能を強化したか。 ② 教職員と連携・共通理解をし、学校教育目標の業務を行ったか。	① 生徒・保護者にどの程度理解できたか。 ② 具体的な教育内容を果たすことができたか。	A (B) C D
11 成果・課題	総合評価	
立場や考え方によって互いに多様であるため、相互の異質性を感じながら、学校の現状等、信頼される学校づくりを進めていくことが必要と感じた。	A (B) C D	
12 来年度に向けての改善方策案		
生徒・保護者と学校との相互の信頼関係を更に発展させる。実態に応じて、学校が自らの役割を判断し、実践を行い、生徒・保護者の好感を得られるよう努める。		

A…十分達成した B…おおむね達成した C…やや不十分 D…不十分

平成25年度 学校関係者評価委員会報告書

ぎふ国際高等学校

<学校関係者評価委員>

- ・岐阜市私立中学高等学校協会本校参与(市議員) 堀 征二 氏
- ・朝日大学教授 田ノ上 純一 氏
- ・木之元自治会連合会長 古澤 豊吉 氏
- ・町内会長 川村 義彰 氏
- ・保護者会会長 山内 香里 氏
- ・保護者会副会長 三輪 悦子 氏

I 平成25年度学校目標

別紙参照

II 学校目標に対する評価・意見

- ・主として中学校・全日制高校での不登校生徒を受入れる学校としての指針がしっかり示されており、適切と判断できる。

III 教務（学校経営・教育課程・学習指導）に関する自己評価への評価・意見

- ・中学校時代の不登校生に対する指導が適切に行われていると判断でき、取り組みおよび自己評価は適切と判断される。
- ・現在、保護者会の協力で、校内に漫画等が置かれているようだが、まずは登校させるという方策がしっかり採られることが今後も大切と考えられる。

IV 生徒指導・教育相談に関する自己評価への評価・意見

- ・最近、喫煙する生徒を見かけなくなり、生活指導がしっかりなされているようで、取り組みおよび自己評価は適切であると判断できる。
- ・地域の催し物にボランティアとして生徒達に参加してもらっているが、非常に助かっている。今後もさらに協力してもらいたい。

V 進路指導に関する自己評価への評価・意見

- ・多様な生徒への進路指導は難しいと思われるが、通信制高校として一定以上の進路決定率を示していることを知り、取り組みおよび自己評価は適切であると判断できる。
- ・特に女子生徒に対する就職指導は難しい面があると思うが、より一層の取り組みを望みたい。

VI 特別活動に関する自己評価への評価・意見

- ・特に意見等は無く、取り組みおよび自己評価は適切であると判断できる。

VII 保健厚生に関する自己評価への評価・意見

- ・特に意見等は無く、取り組みおよび自己評価は適切であると判断できる。

VIII 図書に関する自己評価への評価・意見

- ・特に意見等は無く、取り組みおよび自己評価は適切であると判断できる。

IX 渉外に関する自己評価への評価・意見

- ・特に意見等は無く、取り組みおよび自己評価は適切であると判断できる。

X 事務に関する自己評価への評価・意見

- ・特に意見等は無く、取り組みおよび自己評価は適切であると判断できる。

XI その他（全般）

- ・学校祭などにおいて、地域住民に来校案内が出されているが、学校の実態や取り組みが十分に理解されていないので、より深く知ってもらうための方策を採った方が良いと考える。これに関しては、町内会への参加案内を出してもらえることとなる。
- ・不登校生徒を受入れる通信制高校としての社会的役割を考えると、本校が今後も存続し続けることが必要となるので、安定経営を目指して、学費等の値上げも検討すべきではないだろうか。
- ・日常的に学校教育に関わっている保護者会の意見は重要であると考えてるので、今後もより積極的な取り組みをされることを望みます。

以上